

口演 17 補助金を活用した高校生による地域の健康づくりの推進 ～高校生が考案した朝食メニューで自分も地域も元気アップ～

○石田侑羽莉 國長稚佳子 渡邊佳 清水健司 能見悦代 野嶋志帆（豊田市健康づくり応援課）

竹内清美（豊田市保健所）

豊田市では、高校生・大学生等、若い世代の「朝食の欠食」が課題の一つとなっている。今回、「豊田市健康づくりつながり合い事業補助金」を活用し、高校生が朝食メニューの考案を通じて生活習慣を改善し、地域へ情報発信することで地域へ健康づくりの輪が広がった事例について報告する。

【背景】

当市では、令和7年4月に「豊田市健康づくりつながり合い事業補助金」（以下「補助金」）を創設し、地域の自立した健康づくりを推進することとした。一方、愛知県立加茂丘高校（以下「加茂丘高校」）では、生徒の朝食の欠食が課題となっており、解決策を検討していた。

【補助金の概要】

- 1 目的：**幅広い世代や多様な主体同士のつながり合いによる健康づくりを創出し、市民の健康増進及び健康づくりの輪の拡大を図ること。
- 2 対象：**高校、大学、地域、事業所等の申請者が、連携対象事業者である小中学校、事業所等、幅広い世代や多様な主体とつながり合って実施する、健康づくりの推進に資する事業。

【取組を始めるまでの経過】

- 1 高校への補助金活用の働きかけ：**高校生の朝食欠食の現状・課題を市と高校の養護教諭で共有。
- 2 食育講座の実施：**市が高校生に対し朝食摂取の効果・望ましい朝食の実践等の講座を実施。

【取組の概要】

- 1 加茂丘高校（申請者）：朝食BOOKの作成及び啓発、小学生向け朝食作り体験の実施**
高校生が自身のアイデアと食育講座の学びを活かして考案した朝食メニューをまとめた朝食BOOKを作成し、多様な主体と連携して啓発を実施。今後、小学生向け朝食作り体験も実施予定。
- 2 地域（連携対象事業者①）：朝食BOOKを地域へ配布・情報発信**
地区コミュニティ会議がヘルスサポートリーダーを巻き込み、地域イベントで情報発信。
- 3 小学校（連携対象事業者②）：小学生への朝食摂取の啓発と朝食作り体験講座参加勧奨**
- 4 事業所（連携対象事業者③）：デジタルサイネージ、健康イベント等で来店者へ情報発信**
デジタルサイネージ等を活用した情報発信のほか、野菜売り場でのポップ掲示や高校生による健康イベントを開催。

【取組の効果】

- 1 加茂丘高校生の朝食摂取率は50.0%から83.3%に上昇（図①）。バランスの良い食事を心がけている生徒は、38.9%から94.4%に上昇（図②）。**
- 2 取組を契機に、朝食BOOK（図③、図④）が、地域のイベント時に地域住民に情報発信されたほか、学校や事業所と連携し、高校生自身による、より広域での啓発の実施につながった。**

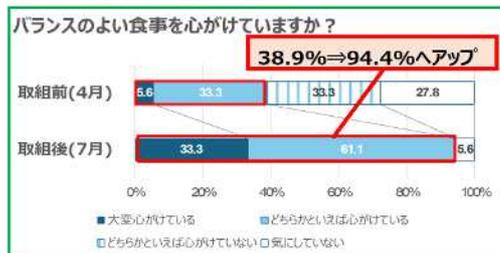
図①：朝食摂取について



図③：朝食BOOK表紙



図②：バランスの良い食事



図④：朝食BOOK（全24ページ）



【考察】

地域には、健康課題の解決につながる有益な資源が豊富に存在している。今回、補助金という支援をきっかけに、市と高校が課題を共有し、高校生が自分事として考え、主体的に取り組んだことにより、高校生の持つアイデアや能力、地域の情報発信力等、多様な主体の強みが相互に発揮され、朝食摂取の大切さの啓発が、高校生自身を超え地域や事業所の協力を得て幅広い世代にまで広がる、想像以上の効果が得られる結果となった。今後も、補助金を活用し、多様な主体のつながり合いによる健康づくりを支援し健康づくりの輪を広げていく。